

Departure English Expression I, II

Part 2

コミュニケーション能力の
土台を築くパート



吉田健三

◆ Part 2 の到達目標

1文の英語表現を学習目標とする Part 1 から発展して、1つのパラグラフで自己表現を行うのが Part 2 (全10課) の学習です。

10のテーマを軸に、依頼や提案などの機能表現 (Functions : Fs) と、英語に直しづらい表現を言い換えるスキル (Ways to Express It : WTEI) を学習し、それを基礎にまとまりのある英文で自分の考えを伝えることを到達目標にしています。

◆有機的でハイブリッドなレッスン構成

Warm-up や Listen and Think のリスニング・スクリプト、Challenge! や Keynote Passage の読解用の英文には、学習項目の Fs や WTEI の表現が盛り込まれ、具体的な場面で有機的に学習できる工夫がなされています。また、4技能の各活動を1つの課で行うハイブリッドな構成になっています。

◇ Part 2 のページ構成

<p. 1>

<p. 2>

<p>Warm-up リスニング (Fs や WTEI の提示)</p> <p>Functions 機能表現の学習</p> <p>Ways to Express It 難しい表現を既習の知識で噛み砕くスキルを学習</p>	<p>Practice Fs と WTEI の応用・定着</p> <p>Challenge! 英文を読解した後、意見を発表する発話活動 (Fs と WTEI の応用・定着)</p>
--	--

<p. 3>

<p. 4>

<p>Listen and Think リスニング (Fs や WTEI の応用・定着)</p> <p>Keynote Passage Outlining 英文を読解、その後パラグラフの構成を考える活動</p>	<p>Get Ready to Write Outlining を参考に、自己表現の英文構成を考える</p> <p>Write on Your Own 指示されたテーマで、1つのパラグラフを書く活動</p> <p>Let's Speak 書いたパラグラフの内容を発表する発話活動</p>
---	---

◆自己表現の基礎：機能表現と言い換えのスキル

英語のコミュニケーション能力を身につけるには、言語としての英語に関する知識と場面や状況に応じ適切な表現が使用できる社会的・機能的な言語使用の能力の習得が求められます。

コミュニケーション能力とは、文法能力と前後関係や場面などの状況を正確に把握して的確に伝達できる談話能力、敬語など社会的規則や約束事を正確に把握して的確に伝達できる社会言語的能力、語彙や文法などの表現力の不足を補うために言い換えや推測をする方略的能力のことです。

Fs と WTEI は、まさにコミュニケーション能力の土台となる談話能力、社会言語的能力、方略的能力の向上を目指しています。

◇ Functions の具体例

a. 感謝する表現 (Lesson 1) I'm grateful for explaining e-banking to me. e-banking について

のご説明に感謝します。/b. 希望を述べる表現 (Lesson 3) **I hope** your argument with him will teach you a lesson. 彼との口論が君のいい教訓になればいいと思う。/c. 対比, 対照を表現する (Lesson 6) **While** some signs are universal, many differ from country to country. 標識は世界共通のものもありますが, 多くは国によって異なります。/d. 自分の意見を主張する表現 (Lesson 9) He **asserts** that all Japanese aged 18 or above should have the right to vote. 彼は18歳以上のすべての日本人は選挙権を持つべきだと主張している。

◇ Ways to Express It の具体例

WTEI については, Part 1 (各課 2 つ) の継続的な学習として, Part 2 では各課 3 つの表現を学習します。本パートの具体例を紹介します。

a. 毎日何時間も～にかじりついている (Lesson 1) ⇒～をして何時間も費やしている He **spends hours each day ~ing**./b. ～に話がはずみました (Lesson 3) ⇒～について話すことを楽しみました We **enjoyed talking about ~** /c. ～に物足りなさを感じる (Lesson 4) ⇒～に完璧に満足しているわけではない I am **not completely satisfied with ~**./d. ～と思い込んでいた (Lesson 7) ⇒誤って～と思っていた I **incorrectly thought that ~**.

◆ Outlining で誰でも書けるパラグラフ

Keynote Passage でパラグラフの具体例を示し, その構成を分析するのが, 英文の設計図となる **Outlining** です。パラグラフは 1 文 1 文を柱や梁のようにして, つながりよく組み立てた「言葉の建造物」ですから, 設計がしっかりしていれば, 英語が苦手な生徒でも論理性のある英文が書けます。さらに, **Get Ready to Write** は発想や不足語句のヒントを提供しています。

◆ 厳選されたテーマと語句・表現の学習サポート

テーマは生徒に考えてほしい多くのものから厳選しています。大学入試のテーマ英作文でも取り上げられているのはその重要性を証明しているとも言えます。Part 2 の基本語句や表現の復習・定着のために『ライティング・サポート・ノート』(標準編)を, 本書で扱ったテーマで大学入試でも用いられている英文やライティング問題を発展学習するために『ライティング・サポート・ノート』(発展編)を用意しています。

◇ 各課のテーマと関連した大学入試問題の例

1 課: コンピュータ社会 (都留文科大2011)・日記 (京教大2007)/ 2 課: 留学と日本紹介 (大阪大2009)/ 3 課: 大切な出会い・礼状 (筑波大2004)/ 4 課: 好きな本や映画 (福島大2008/大阪大2005/青山学院大2006)/ 5 課: 日本語独特の言い回し (大阪大2011)・失敗談 (九州大2008)/ 6 課: 視覚的メッセージ (青山学院大2007/お茶の水女大2006/慶応大2002)/ 7 課: 食事と健康 (青山学院大2007)/ 8 課: 外国語の影響 (東京大2010)/ 9 課: 成人年齢 (一橋大2006/関西学院大2001)/ 10 課: 思いやりのある社会 (甲南大2002)

◆ CLT からの “Departure (飛躍)”

1960年代までは, 言語は a system of rules ととらえられ, 1970年代になって, a system of the expression of meaning と考えられるようになりました。その結果, Communicative Language Teaching (CLT) が世界的に広まり, 日本でも Oral Communication の授業が誕生しました。近年は文法指導を盛り込んだタスクを用いる Focus on Form が唱えられています。Departure English Expression II はその歴史的な流れに沿った, CLT からの新たな departure を果たし, 高いコミュニケーション能力を習得する一助となると確信しています。

(よしだ けんぞう・兵庫県立長田高等学校教諭)